



桃一通信

No. 671

桃井第一小学校
(3390)3178(代)

令和5年 1月号



「ことばではなそう」

校長 高橋 浩平

2023年、令和5年、新しい年が始まりました。あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひします。3学期は53日（卒業式を入れると54日）という一番短い学期ですが、桃一美術館もあります。短くても充実した3学期にしたいと思います。

さて、子供たちに折に触れて話していることの一つに、①ことばではなそう②いじわるをしない③そうだんする、というのがあります。特に、「ことばではなそう」は「ことばづかい」とともに、全校朝会等でよく話してきました。

「ことばではなそう」というのは「ことばで思いを伝えよう」ということです。こんな事例がありました。

AさんはBさんに声をかけたけれどBさんは気が付いてくれなかった。

⇒そこでAさんはBさんの体をちょんちょんとつついた。

⇒BさんはAさんになぐられたと思い、なぐりかえした。

CさんはDさんに対して「立ち歩きちゃいけないんだよ」と注意した。

⇒それでもDさんは立ち歩きをやめなかった。

⇒Cさんは「立ち歩きちゃダメって言ってるでしょ！
どうして守れないの？座っていなさいよ！」とさらに強く注意をした。

⇒Dさんはそのことに腹を立ててCさんをなぐった。

これは両方ともトラブルになったケースです。お互いに落ち着けば「ごめんなさい」となるのですが、「つつくまえに」「なぐるまえに」にもっと「ことば」で伝えられなかったかなあと思うケースです。

考えてみれば、私たち周囲の大人も子供たちにもっと「ことばではなそう」と言い続けたいと言けないのかもしれませんが。「あほ、ばか」と言われたことに腹を立てて友達をなぐる。⇒なぐったことは悪い、そのきっかけになった暴言もよくない、と指導が展開されるわけですが、「あほ、ばか」に対して、なぐらずにことばで返すこと、そのときにどんな言葉をチョイスすればよいのか考えること、という指導までは十分に手が回っていないような気がします。もっとも「ことば」による言い争いがエスカレートしてなぐり合いになる、ということもありますから、「言葉のチョイス」は大事なんだろうと思います。

振り返ってみるとSNSの世界ではいまだに誹謗中傷のたぐいが発せられています。「気に食わない」「気分が悪い」と言った感情がそのまま文字化されてとびかっているのを見ると、子供だけではなく大人にも「(冷静な) ことばではなそうよ」と言いたくなりますね。大人の世界でも語彙力の不足が気になります。語彙力というと「たくさんの言葉を知っている」というイメージがありますが、「ことばを必要な場面で正しく使う」ということも入ります。国語科の基礎でもあります。そしてその力を伸ばしていくのは、ことばではなす（対話する）機会を増やす、ということに尽きるようです。学校生活において、家庭生活において、しっかりと「ことばではなす」習慣をつけていくことが大切だと感じています。3学期も子供たちに「ことばではなそう」と言い続けたいと思っています。



1月の生活目標 「言葉やあいさつに気を付けよう」

1月は、桃一小の合言葉『4つのあ』—「あんぜん」「あいさつ」「ありがとう」「あつまり」のうち、「あいさつ」と「ありがとう」を意識して励みます。合わせて、挨拶標語づくりにも学校全体で取り組みます。（桃一美術館、書き初め展の公開に合わせて掲示します。）

標語として表現することを通じて、挨拶に込める思いや大切さについて、日常を振り返って子供たちはじっくり考えます。出来上がった標語からは、ご家庭でもいろいろな形であいさつの大切さを伝えてくださっていることが伺えます。また、子供ならではの素直な表現もみられ、顔がほころんだり感心させられたりします。挨拶の気持ちよさが、人と人をつなぐ良さに繋がることを、保護者の皆様と共に伝えていきたいと思います。

学校では年間を通じて代表委員が中心となりあいさつ運動も行っています。3学期も、子供たちから、自然と挨拶が広がっていく環境づくりを進めていきます。

（生活指導部）



「学校のICTについて」

昨年度より1人1台専用タブレット端末が配備され、3年生以上は自宅に持ち帰って家庭学習でも活用されています。タブレット端末は、新しい学びのツールとして、学校だけでなく家庭でも、「いつでも、どこでも」使うことができます。

本校では、1人1台専用タブレット端末を活用して、「個別最適な学び」「協働的な学び」「探究的な学び」を進めています。「個別最適な学び」では、「ミライシード」を活用し、一人一人の学習定着度に応じた課題に取り組んでいます。「協働的な学び」では、「ロイロノート」を活用し、自分の考えや表現したこと、学習記録をグループや学級全体で共有して、対話的に学び合っています。「探究的な学び」では、教科書や図書資料に加えて、インターネットを活用して調べ学習を行っています。

タブレット端末の活用場面を自ら選択して、効果的かつ日常的に使いこなすことで、一人一人の学びがより豊かになることが期待されます。一方、タブレット端末を日常的に使うにつれて情報モラル教育も大切になります。タブレット端末の使い方やネットの危険性など、情報社会に関する技術や思考を身に付け、情報を正しく使いこなす方法を身に付ける必要があります。ご家庭でもタブレット端末の扱い方について、話し合っただければと思います。

（ICT 広報部）





今年の研究について

今年度、国語科の研究を始めて2年目となりました。研究主題「言葉による見方・考え方を働かせ、自分の考えを表現できる児童の育成」を目指して、今年度は文学的な文章の学習に領域を絞って授業研究を行いました。

第1回は6月30日に2年生で「スイミー」の授業を行いました。「スイミー日記」を書くことを通して、自分の知識や体験と結び付けて主人公であるスイミーの気持ちを読み取ることができました。

第2回は10月27日に3年生で「ちいちゃんのかげおくり」の授業を行いました。初めて出会う戦争教材。登場人物の気持ちを読み取ることを通して、自分はどう感じたかワークシートに書くことができました。

第3回は11月29日に6年生で「やまなし」の授業を行いました。宮沢賢治の世界を読み解くために、やまなしだけでなく、伝記や宮沢賢治の他の作品を読み比べながらテーマ学習を行いました。一人一人、宮沢賢治が作品に込めた思いを考えることができました。

今後は、次年度に向けて成果と課題をまとめ、日々の授業改善に生かしていきます。

第2学年 スイミー

(研究部)



第3学年 ちいちゃんのかげおくり



第6学年 やまなし

